

299 ^{133}Xe 動注法による局所脳血流量測定

— 脳梗塞，脳血管性痴呆症例の検討 —

渡辺 象，上嶋権兵衛，宮川弘一（東邦大 二内），
佐々木康人，黒澤 洋（同放），高野正明，
三浦慶和，丸山雄三（同 中放RI）

^{133}Xe 生食溶液 5mCi を内頸動脈に bolus として注入後，サール社製 LFOV γカメラを用いて頭部側面イメージを10秒間隔で16枚撮影した。同時にミニコンピューター，シンチバック 1200 に5秒間隔で120フレームのデーターをマトリックスサイズ 64×64 で収録した。これを再成し，格子状ROI (80~100)を設定して各ROI上の洗い出し曲線を high over area 法，又は two compartmental analysis 法により解析した。得られた局所脳血流量の分布を脳血管撮影所見と比較検討した。

これまで検討した対象は，脳梗塞5例で，そのうち2例は脳血管性痴呆例である。全例男性で，年齢は38~65才（平均55.2才）。平均局所脳血流量は， $43.9 \pm 8.2 \text{ ml} / 100 \text{ g brain} / \text{分}$ であった。このうち脳血管性痴呆を除いた脳梗塞例は $47.9 \pm 8.9 \text{ ml} / 100 \text{ g brain} / \text{分}$ で，脳血管性痴呆例では $41.7 \pm 7.7 \text{ ml} / 100 \text{ g brain} / \text{分}$ であった。さらに症例を追加し，脳血管撮影と比較して，本法の有用性を評価する。
